

高蔵寺リ・ニュータウン計画の見直し（骨子）案

第1章 高蔵寺ニュータウンの現状と課題

- 1 高蔵寺ニュータウンの概要
- 2 歴史とこれまでの取組
 - (1) 開発の背景と経緯
 - (2) 春日井市の取組
 - (3) 諸機関・団体の取組
- 3 現状と課題
 - (1) 高蔵寺ニュータウンの特性と周辺との関係
 - (2) 人口・世帯の動向
 - (3) 住宅・土地の状況
 - (4) 交通の状況
 - (5) 商業・工業の状況
 - (6) 公共公益施設の状況
 - (7) 社会基盤施設の状況
 - (8) 自治組織・市民団体の状況
 - (9) 防災・防犯の状況
 - (10) 住民の意識

第2章 高蔵寺リ・ニュータウン計画

- 1 基本理念と目標
 - (1) リ・ニュータウンの基本理念
 - ア リ・ニュータウン
 - イ 7つの基本理念
 - ①成熟した資産の継承
 - ②公共施設・生活利便施設の集約化とネットワークの構築
 - ③暮らしと仕事の多様性の確保
 - ④住民・事業者・市の協働の推進
 - ⑤持続可能な都市経営の仕組みの構築
 - ⑥高蔵寺ニュータウンを核とした周辺・広域との連携強化
 - ⑦まちの新たなブランド力の創造と発信
 - (2) 計画期間
 - (3) 計画区域
 - (4) 施策の構成
 - (5) 目標
 - ア 人口・世帯の目標
 - イ 成果指標

2 先導的な主要プロジェクト

(1) 先行プロジェクト（2年以内に着手）

ア 旧小学校施設（旧藤山台東小学校）を活用した多世代交流拠点の整備

イ 民間活力を導入したＪＲ高蔵寺駅周辺の再整備

ウ 自動運転など先進技術による快適なまちづくり「高蔵寺ニューモビリティタウン」の推進

【プロジェクトの概要】

自動運転車両、パーソナルモビリティと既存の交通機関など、新たなモビリティサービスと既存交通とのベストミックス（モビリティ・ブレンド）を模索し、ニュータウン型の MaaS（Mobility as a Service）を構築する。

【創造する活動のイメージ】

高齢者を始めとするあらゆる世代の住民にとって外出機会の増加が期待でき、自動車に過度に依存せず暮らすことができる持続可能なまちとすることができる。

【具体的な取組の例】

- ①ラストマイル型自動運転モビリティサービスの実証実験や社会実装に向けた検証
- ②既存交通事業者（バス・タクシー等）や地域住民と連携したモビリティサービスの実証実験や社会実装に向けた検証
- ③各種モビリティサービスとアプリケーションとの連動（車両の予約、呼び出し等）
- ④高齢者の外出支援を目的とした各種抗老化プログラムと移動サービスの連携
- ⑤サブ交通拠点等における新たなモビリティステーションの設置検討

エ 旧西藤山台小学校施設への生活利便施設の誘致

【プロジェクトの概要】

旧西藤山台小学校施設を、民間活力により地域と調和した新しい複合拠点として整備する。

【創造する活動のイメージ】

避難所、投票所機能及び周辺的生活環境を維持しながら、土地は市が所有し、借地での事業展開を検討する。

【具体的な取組の例】

- ①敷地内の区分けによる段階的な整備
- ②体育館を残置し、避難所、投票所、スポーツ利用機能を確保
- ③スーパーマーケット、カフェなどの生活利便施設の誘致による地域の魅力向上
- ④第Ⅰ期整備エリア（運動場）に応じた第Ⅱ期整備エリア（校舎）の整備
- ⑤H29.10 に官民連携で設立したまちづくり会社によるエリアマネジメント事業との相乗効果を狙う連携の検討

(2) 展開プロジェクト

- ア 交通拠点をつなぐ快適移動ネットワークの構築
- イ センター地区の商業空間の魅力向上と公共サービスの充実
- ウ スマートウェルネスを目指した団地再生の推進

(3) 情報発信プロジェクト

- ア ニュータウン・プロモーション
- イ ニュータウンまるごとミュージアム

3 課題に応じた主要な施策

- (1) 住宅・土地の流通促進と良好な環境の保全・創造
- (2) 身近な買い物環境の整備と多様な移動手段の確保
- (3) 多世代の共生・交流と子育て・医療・福祉の安心の向上
- (4) 既存資産（ストック）の有効活用による多様な活動の促進
- (5) 高蔵寺ニュータウンを超えた広域的なまちづくりの推進

4 計画の推進と見直し

- (1) まちづくりの担い手の形成
- (2) 多様な主体による主体的な取組と相互の連携の推進
- (3) 計画の推進と見直しの仕組み

『高蔵寺ニューモビリティタウン構想事業』 ロードマップ

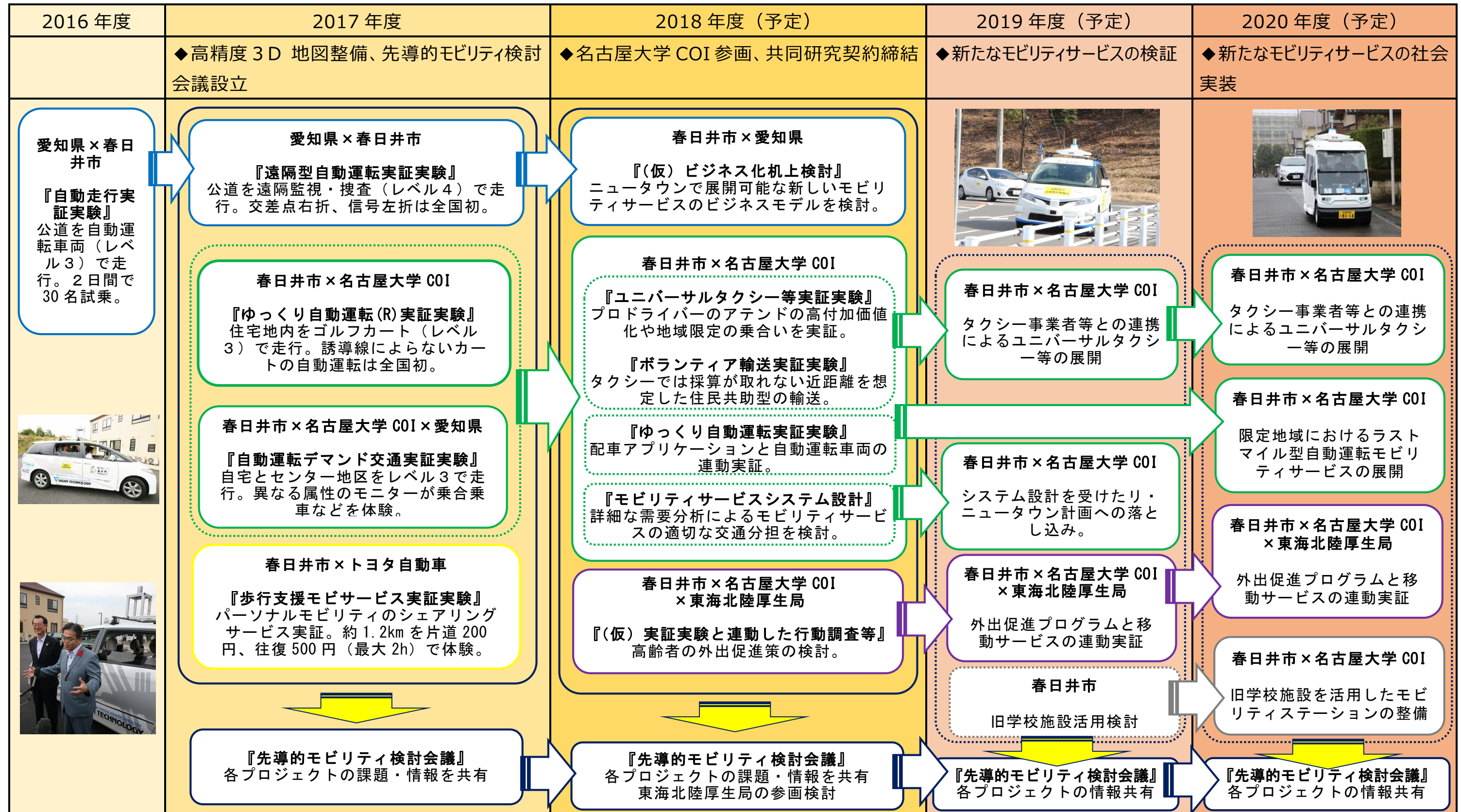


春日井市
kasugai City



資料 4 参考資料

高蔵寺ニュータウンにおけるあらゆる課題の解決に資するため、自動運転車両、パーソナルモビリティ、バス・タクシー等既存交通機関、住民共助型システムによる移動支援など、新たなモビリティサービスと既存交通とのベストミックス（モビリティ・ブレンド）を模索し、ニュータウンにおける地域の特性に応じた適切なモビリティサービスの社会実装を実現することで、ニュータウン型の MaaS（Mobility as a Service「移動のサービス化」）を構築し、先進技術による快適なまちづくり『高蔵寺ニューモビリティタウン』を目指す。



1.これまでの取組

年度	暫定活用の取組	活用検討の経過
平成27年度	◆基本方針策定 (民間活力による生活利便施設の導入) ◆地元町内会等と意見交換 (避難所、投票所、集会所)の維持) ◆暫定活用中の施設管理について地元町内会と連携・協力の検討(草刈り等)	
平成28年度	◆地元町内会有志による草取り(年2回)、施設の見回り ◆体育館は避難所、投票所、スポーツ利用 ◆運動場はスポーツ利用 ◆校舎は集会所で利用	◆敷地と施設の一体的な活用による生活利便施設を検討 ⇒事業性薄く、一体的な活用が困難と判明
平成29年度	◆前年度と同様の取組	◆民間事業者との対話による市場性の把握 ⇒敷地内の区分けにより整備可 ⇒借地で事業展開可(土地は市が所有)

2. これからの取組

平成30年度

具体的な敷地内の活用方法を検討

- 敷地内の区分け
- 避難所、投票所、(集会所)機能の維持
- 民間事業者の公募条件(生活環境の維持・保全など)の検討

※事業者の公募は平成31年度以降を予定

3. 活用イメージ(段階的な整備)

